

現代生活学科の授業科目紹介！ (その7)

～「生活経済論演習a」～

実践女子大学現代生活学科は、4年間を通じて**徹底した課題学習**を行い、**学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動型学修**に取り組んでいます。

今号ではそのような授業のひとつとして、現在、生活文化学科の2年生以上向けに開講している**「生活経済論演習a」**をご紹介します。(※来年度以降は、現代生活学科の2年生以上向けに「コミュニティ経済演習」として開講する予定です。)

この授業では全15回の講義の中で、生活経済と関係の深い様々なトピックを題材として、**①事例研究、②情報分析(ディスカッション)、③企画検討(プレゼンテーション)、④企画発表(プレゼンテーション)**のサイクルを3回繰り返すことによって、

- ・ 実際の社会で求められる**情報の収集・分析、グループディスカッション、プレゼンテーションに関する基礎的能力**を身につけること
- ・ 生活経済に関する様々なトピックについて、**多様な視点から自分の言葉で論理的に説明**できるようになること
を目標としています。

第1回の講義ではプレゼンテーションに対して**戸惑いや苦手意識を持っていた学生も、最終回の講義では自らの成長を強く実感**してくれていました。詳細は裏面の学生の感想をご覧ください！

[担当教員紹介] 野津 喬(のづ たかし)

実践女子大学現代生活学科 准教授。研究領域は食料・農業、エネルギー、環境、知的財産など。趣味は料理。最近の得意料理は「鳥胸肉の照り焼きソース風ステーキ」

現代生活学科1年生
YMさん作画



実践女子大学現代生活学科では、これからの日本や世界の**経済、社会の大きなテーマである「環境」、「メディア」、「自立社会」**について学びます。

1学年60人という少人数教育の利点を活かして、**アクティブ・ラーニング**
(注) 形式の授業を多く取り入れることによって、学生の主体的な「学び」の姿勢を育てています。

(注) アクティブラーニング・・・大人数の受講生に対して講師から一方通行で説明を行う「講義形式」の教育とは異なり、学習者の主体的な参加を取り入れた講義・学習法

「生活経済論演習 a」を受講してー講義終了後の学生の感想ー

この講義でプレゼン能力が上がったと思います。
プレゼンなんてしたことなかったけど、初めてやってみてとても大変なけれど、グループのみんなと協力して完成することができて良かった。

プレゼンの実力が上がった。プレゼンの仕方が分かるようになった。これらのおかげで、この授業が本当に「役に立つ」と感じます。他の授業だと「先生が話していることを聞いておくだけ」で、身をもって自分の成長を感じることが出来ません。しかし、この授業は自分たちで考えたことを先生に聞いてもらって評価してくれるので、身をもって成長を感じることが出来ます。

普段人前で話すことはないのですが、この講義で少しは度胸が身についたのではないかなと思います。後は、いつも話していない人達と授業を通じて4回ほどプレゼンまでできていかなければならない為に、協力的になることも必要でした。自分たちのプレゼンをより印象に残すための考え方やデータをまとめることなども身につけました。

プレゼンをするのは不安だったし、準備が大変なだけじゃなくて以上に自分が成長したと思えたのが良かった。プレゼンに対する苦手意識が少なくなったと思う。他学年の人と一緒にチームになると新しい意見が生まれることもあるけれど、自分のためになった授業だった。

プレゼンや発表する機会が多かったため、今までに比べて人前で話すことに慣れたと思います。また、より分かりやすく説明するには結論を先に言うなど、今まで知らなかったプレゼン方法を身につけることが出来ました。

初めてのひとりのプレゼンを作り上げ発表するということは、今後社会に出たら役立つことであり、良い糸玉になった。プレゼンに対する意識も上がり、どのように作ったり発表すれば良いか学べたのが良かった。

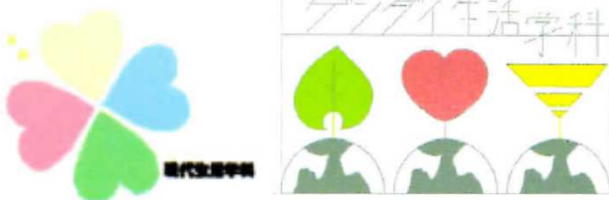
この授業は演習の授業ですが、生徒にかつてにあって、という感じではなく、最初のスタッフから最後まで導いてくれるような授業をしてくれたのでとても役に立ちました。プレゼンをする機会は今後増えていくと思うので、その時にいかしていただけるようにしたいと思います。

私は前週「言葉のこぼれ」で緊張してしまったり、筋の通っていない言葉を話してしまいました。でも、この授業で、3回のプレゼンテーションをすることで、以前より落ちついて話すことが出来るようになったと思います。どう言ったら、伝わりやすいのかを考えたりできるように、2回目のプレゼンテーションの基礎を知ることが出来ました。

私はこの講義で、「人前で自信を持って発表する力」を身につけました。この能力は、将来仕事をしていくなかでも役に立つものだと思います。

どうやって相手によく伝えるのか、どうやって誤解が起きないように伝えられるのかを学ぶことは、世界の授業で初めて学ぶのが最初でしたが、回数を重ねるうちにコツもわかってきて、聞き手側の右を見ながら話すことで、円滑な話し合いが増えることが分かったと思います。

今回の講義を通して身につけたものは2つあります。(1)目は、コミュニケーション能力です。グループワークやディスカッションをしたことにより、他者に自分の考えを伝える機会が多くありました。相手によく伝えるような会話の工夫を常に考えていたことで、コミュニケーション能力が身についたように感じられました。(2)目はプレゼンテーションの基礎です。合計3回のプレゼンテーションを行ったことにより、資料作りから発表までの構成を理解でき、実践できるようになりました。



メディア関連の授業（河井先生担当）にて、現代生活学科のマークを学生諸君が試作しました。その一部を番号にわたって紹介します。

現代生活学科は、「環境」を理解し、「メディア」の技術と考え方を身につけ、「自立」した社会と暮らしづくりを構想し、実践するための教育を展開します。
私たちとともに、女性ならではの視点で、新たな社会づくりを考えていきませんか？

実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 News! 2014年第16号
編集・発行 実践女子大学 生活科学部 現代生活学科 2014年8月8日発行
〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1 Tel. 042-585-8918 Fax. 042-585-8919
実践女子大学 <http://www.jissen.ac.jp/> 現代生活学科 <http://www.greenphronesis.org/>